

町のわだい



今月の題字 田老 ^{はるか} 悠花さん（山田南小6年）

山田の鮭まつりが開催 つかみ取りに会場が沸いた

11月27日、山田魚市場で鮭まつりが行われました。午前9時の開会セレモニーに始まったまつりは、新巻鮭などが当たる千本釣り（くじ引き）にハラッコ井などが食べられる食堂コーナー、鮭のちゃんちゃん焼きのお振る舞いと、まさに鮭尽くし。中でも注目を集めたのは、2年ぶりに復活した鮭のつかみどりでした。多数の参加希望者の中から抽選で選ばれた参加者らは、特設プールに放たれた活きのいい鮭に悪戦苦闘しながらも、それぞれ大ぶりの獲物に狙いを定めてゲット。その様子に、会場は大いに沸き立ちました。



白石そば作りの全てを体験 愛情込めたそばは格別の味

12月4日、田子の木生活改善センターで「白石そばづくり全部体験」が行われました。これは、種まきから収穫、そして食べるまでを全て体験するというもので、白石集落農業生産組合（越田正一郎組合長）が白石集落を多くの人にきてもらえる場所にしたいと企画。町内外の参加者15人が参加しました。最終回を迎えた今回は、今まで愛情を込めて育てたソバを用いて、十割そば作りに挑戦。参加者らは、そば粉をこねたり、のし棒で生地を延ばしたりといった体験を楽しみながら、自分で作ったそばの味を堪能していました。



コミュニティーの形成へ 大沢川向コミセンで開所式

12月11日、大沢川向コミュニティセンターの開所式が行われました。同センターは（公財）国際開発救援財団〈ファイダー〉の支援により建設。開所式には約40人が出席しました。同財団の江川信彦常務理事は「復興にはコミュニティーの形成が必要だと考えています。皆さんには十分にこの施設を利用してもらいたいです」とあいさつし、佐藤町長が「ファイダーさんからはさまざまな支援をいただいています。ありがとうございます」と応じ、目録を受け取りました。式の終了後には、施設内で交流会が行われ、参加者らは早速交流を深めていました。

